

五 英国皇族アーサー、オブ、モンノート親王殿下訪日一件

九六

ヴイル

一五四

been handed to You by my cousin Prince Arthur is enhanced by the fact that the baton of office has whose safe arrival to enjoy again Your kind hospitality I learnt with much satisfaction.

London, 20/6/1918.

GEORGE. R. I.

(右記訳文)(註釈文ナラ)

本日陛下ノ懇篤ナル親電ニ接シ感謝ニ堪ヘス英國陸軍元帥ノ班位ヲ陛下ニ贈進シタル朕ノ歓喜ハ朕ノ従弟「プリンス、アーサー」ヲンテ陛下ニ元帥杖ヲ捧呈セシメタルニ依リ一層深厚ナルヲ得タリ又同従弟ノ貴國ニ安著シ重ネテ陛下ノ優遇ヲ辱ウスルヲ開クハ朕ノ欣幸トスル所ナリ

ジョージ

日本国皇帝陛下

(附屬書)

(a号)

アーサー、オブ、モンノート殿下隨員受勲名簿

英國皇族アーサー、オブ、モンノート殿下隨員

勲一等旭日章 陸軍中將サー、ダヴィリウ、ボルトニー

旭日中綬章 陸軍中佐勲二等ジョー、エー、シー、サム

(b号)

英國皇族アーサー、オブ、モンノート殿下従者

青色桐葉章 勲七等ハーリー、アルフレッド、ガーナー

勲七等瑞宝章 レオナルド、ティラー

勲七等瑞宝章 ジョージ、ホグビン

勲七等瑞宝章 ハフ、ファーザー

事項六 東伏見宮依仁親王殿下英國及他連合國往訪一件

九七 五月二十七日 (後藤外務大臣ヨリ 在英國珍田大使宛) (電報)

依仁親王殿下ヲ英國へ御派遣ニ付同國皇室ノ意嚮問合方訓令ノ件

第一七一号

リ九月二十六日発ノ「シャトル」行伏見丸ニ搭乗セラレ「ヴィクトリヤ」ニ御上陸C、P、R、線ニテ東行セラルル管尚「モンノート」殿下米国迄御乗用ノ為巡洋戦艦霧島ヲ派遣スルコトニ決定セリ

九八 六月二十一日 (後藤外務大臣ヨリ 在英國珍田大使宛) (電報)

依仁親王ト天皇陛下トノ御関係ニ關シ問合

内々其ノ意嚮御問合ノ上結果電報アリタソ

尚殿下ハ八月中旬頃当地御出発ノ御予定ナリ

九九 六月二十四日 (後藤外務大臣ヨリ 在英國珍田大使宛) (電報)

依仁親王ト天皇陛下トノ御関係ニ付請訓ノ件

第四六三号 至急

依仁親王ハ陛下ト御親族關係上何ニ当ラセラルルヤ外務當局ヨリ内々問合アリ回答振至急御電訓ヲ請フ

一〇〇 六月二十八日 (後藤外務大臣ヨリ 在英國珍田大使宛) (電報)

依仁親王殿下ノ天皇陛下トノ御親族關係ニ付

第三二二号

依仁親王殿下ハ英國皇帝陛下ニ於テ十月第三週以後ノ御着英ヲ希望セラル趣在本邦英國大使ヨリ申出アリタルニヨ

六 東伏見宮依仁親王殿下英國及他連合國往訪一件 九七 九八 九九 一〇〇

第三四二号

回訓ノ件

一五五

六 東伏見宮依仁親王殿下英國及他連合國往訪一件 一〇一

貴電第四六三号ニ関シ宮内省ニ問合セタル處依仁親王殿下

ハ天皇陛下ト御血統上近キ御關係ハ在ラセラレザルモ同親

王ハ伏見宮故一品邦家親王ノ御子ニシテ貞愛親王戴仁親王

(閑院宮)等ノ御弟ニ当ラセラレ明治十九年四月二十七日

明治天皇ノ御養子ト成ラセラレ統テ同年五月一日親王宣下相成タル次第ニシテ伏見宮ハ後花園天皇ノ皇弟貞常親王ヨリ出テ維新前ニ於テモ四親王家ノ一トシテ世々皇族中特殊ノ地位ヲ保有セラレタル旨回答アリタリ就テハ以上ノ事実ニ依リ英国外務当局へ可然回答アリタシ

一〇一 十月二十八日

在英國珍田大使
内田外務大臣宛(ヨリ
(電報)

東伏見宮殿下倫敦御著ノ件

第九三八号

東伏見宮殿下本二十八日午後三時四十五分「パッディントン」停車場御著方事予定ノ通り進行セリ

註 依仁親王殿下英國ニ於ケル御動靜報告ノ電報ヲ省略ス後出十二月三十日在英國珍田大使發内田外務大臣宛公第二五〇号(一〇八文書)参照

一〇一 十月二十八日

在英國珍田大使
内田外務大臣宛(ヨリ
(電報)

東伏見宮殿下倫敦御著ノ件

第九三八号

東伏見宮殿下本二十八日午後三時四十五分「パッディントン」停車場御著方事予定ノ通り進行セリ

註 依仁親王殿下英國ニ於ケル御動靜報告ノ電報ヲ省略ス後出十二月三十日在英國珍田大使發内田外務大臣宛公第二五〇号(一〇八文書)参照

一〇一 一〇三 一〇四

一五六

一〇一 十一月六日

在仏國松井大使
内田外務大臣宛(ヨリ
(電報)

依仁親王殿下ブローニュ經由パリ著ノ件

第五四七号

依仁親王殿下十一月五日午後六時Boulogne御着特別列車ニテ夜十一時巴里ニ御安着仏國政府ノ用意セル Hotel de Crillonに入ラセラレタリ六日午後零時三十分大統領ト御対面引続キ大統領ノ午餐ニ御台臨アラセラル

一〇三 十一月七日

在仏國松井大使
内田外務大臣宛(ヨリ
(電報)

仏國大統領依仁親王ニレジオン、ドノール大綬章贈進並同親王仏米戰場慰問ノ旨報告ノ件

第五五一号

仏國大統領ハ依仁親王殿下ニ「レジオン、ドノール」大綬章ヲ贈進シ隨員一同ヲモ夫レ夫レ叙勲セリ殿ハ七日朝特別列車ニテ戰線ニ向ハセラル「フォッシュ」元帥ヲ訪問後仏米戰場ヲ慰問ノ上八日夜巴里ニ帰還ノ予定

一〇四 十一月八日

在仏國松井大使
内田外務大臣宛(ヨリ
(電報)

第五五一号

約一時間ニテ連合軍總司令部ニ「フォッシュ」元帥御訪問勳章御贈進バサレ次デ「ソーアッソン」附近ノ戰場御巡覽ノ後「ランス」ニ至リ荒廃セル同地ノ狀況御視察ソレヨリ

直ニ「ヴエルダン」ニ向フ今朝同地御着戰場御覽ノ後同地ニ在ル將官ト司令部ニテ御昼餐勳章御贈進アリ尚米軍司令部御訪問ノ後御機嫌麗シク巴里ニ御安着明日白國ニ向ハセラル(八日)

一〇五 十一月八日

在仏國松井大使
内田外務大臣宛(ヨリ
(電報)

註 宗秩寮總裁侯井上勝之助六月二十四日付東伏見宮依仁親王殿下ノ隨行ヲ命セラレタリ

仏國政府依仁親王殿下及隨員一同叙勲並殿下各地戰場御巡覽ニ付井上侯ヨリ宮相へ報告ノ件

第五六四号

(十一月十一日接受)

井上侯ヨリ宮内大臣へ左ノ通

各地戰場御巡覽ニ付井上侯ヨリ宮相へ報告ノ

件

六日殿下首メ隨員一同ヘ叙勲アリ七日朝汽車ニテ巴里御發六日殿下首メ隨員一同ヘ叙勲アリ七日朝汽車ニテ巴里御發

六 東伏見宮依仁親王殿下英國及他連合國往訪一件 一〇五

一〇六

十一月十二日

在仏國松井大使
内田外務大臣宛(ヨリ
(電報)

依仁親王殿下白國御訪問兩陛^下ト御會見及ガ

ンブレイ方面戰線御視察ニ付井上侯ヨリ宮相

ヘ報告ノ件

一〇六 十一月十二日

在仏國松井大使
内田外務大臣宛(ヨリ
(電報)

井上侯ヨリ宮内大臣へ左ノ通

各地戰場御巡覽ニ付井上侯ヨリ宮相へ報告ノ

件

第五七七号

(十一月十四日接受)

井上侯ヨリ宮内大臣へ左ノ通

各地戰場御巡覽ニ付井上侯ヨリ宮相へ報告ノ

件

一〇六

一五七

ヲ御贈進被遊両陛下ニ於テハ深ク御喜ビニテ直チニ御佩用
被遊我両陛下ニ対シ宜シク御礼申上ケラレ度旨殿下「御沙
汰アリ本官以下隨員一同ニ御贈歎アリ御告別後同夜「カン
ブレイ」方面ニ向ケ御発翌十一日該方面ノ戰線御視察英軍
総司令官「ヘイグ」元帥御訪問午餐ヲ共ニセラレ同所ニテ
英國皇太子殿下ト御會見後本日早朝巴里ニ御着遊バサル御
機嫌麗シ

一〇七 十一月十七日 在伊國伊集院大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

依仁親王殿下伊國御訪問ノ模様報告ノ件

第二〇二号 (十一月十九日接受)

依仁親王殿下十五日午前十時御機嫌好ク御着遊サレタルガ
国境ニハ伊國侍從武官海軍將校兩名御出迎ヘシ當館ヨリ御
出迎ノ者ト共ニ御安着停車場ニハ御微行ト御断アリタル
ニ拘ラズ陛下御名代トシテ攝政王「ゼノア」公政府ヲ代表
シテ外務次官「ドフザイレ」⁽²⁾羅馬府知事及市長宮殿長始メ
宮内省高官等御出迎シ「ゼノア」公ノ御案内ニテ儀仗兵整
列中ヲ御通過ノ上宮中ヨリ当テラレタル「グランド、ホテ
ル」ニ御着直ニ先帝及先々帝ノ御墓所ニ御參拝花環ヲ捧呈

在中本使微恙ニテ拝謁ヲ得ザリシモ殿下御來訪ノ御使命ハ
遺憾ナク達セラレタルヤニ拝察ス

一〇八 十二月三十一日 在英國珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛

東伏見宮依仁親王殿下御滞英中御狀況報告ノ
件

附属書一 依仁親王殿下ヨリ英國皇帝陛下ニ元帥
徽章奉呈ノ式辭

二 英國皇帝陛下ヨリ依仁親王殿下へ御答
辞

(大正八年四月七日接受)

大正七年十一月三十一日

在英

特命全權大使子爵 珍田捨己(印)

外務大臣子爵内田康哉殿

東伏見宮依仁親王殿下英國御滞在中ノ御動靜並ニ當國朝野
ノ歓迎振ニ就キテハ既ニ屢次ノ拙電ニ依リ大要御承知ノ事
ト被存候処今左ニ別紙ヲ以テ詳細ノ狀況ヲ具報スルニ方リ
特ニ摘録ノ必要ヲ感スルノ点ハ第一英國皇室ノ懇篤ナル御

外務大臣子爵内田康哉殿

セラレ午后三時皇帝陛下ニ御拝謁種々御親話アリシヤニ拝
承ス終ツテ隨員一同陛下ニ拝謁更ニ引続キ「ゼノア」公ヲ
訪問遊バサル御帰還後間モ無ク陛下及「ゼノア」公親シク
御旅館ニ御答礼アリ引続キ總理大臣外務次官等別々ニ殿下
ニ拝謁仰付ラル同夜宮中ニテ宴会アリ宴会前ニ殿下ニハ大
勲位其他隨員一同ニ御贈歎アリ宴會ニハ當館員ノ一部及陸
海軍武官共ニ陪食ノ榮ヲ得タリ翌十六日正午郊外離宮ニ於
テ両陛下及皇子皇女ノミ御列席ノ極メテ親シキ御食事アリ
テ御席ニ限リアリ殿下ノ外ニハ隨員三名ノミ参列同日午后
四時羅馬市長殿下ノ為メニ「レセプション」ヲ催シ之ニ御
臨席遊サレ御帰還後參謀總長「ゲアツ」將軍ヲ御引見殿下
御滯在中御接待向等ノ理由ニテ當國官憲ニ御贈歎アリンガ
特ニ總理大臣參謀總長等ニ桐花草ノ御親授ハ非常ニ好印象
ヲ与ヘラレ殿下ハ同日ノ十一時宮殿長及宮内高官羅馬知事
等奉送ノ中ニ御機嫌好ク巴里ニ向ケ御出發今回殿下ノ御來
訪ハ宛モ伊國戰捷陛下急ニ御還幸ノ際ニテ多少ノ混雜ハ免
レザリシモ目出度キ出来事ノ折柄ニテ特ニ皇室始メ市民一
層歓喜御迎ヘシ殿下ガ病傷兵ニ対スル御見舞金御下賜ニ就
テハ總理大臣モ親シク御礼ヲ言上セリ不幸ニシテ殿下御滞

接待振及第二特使殿下ガ首尾完全ニ御使命遂行ノ結果當國
朝野一般ニ対シ深甚ノ好印象ヲ与ヘタル事實ニ有之候
当國ニ於テハ戰前ハ勿論開戦以来モ外國皇族ノ去来ナキニ
非ザリシモ今回ノ如ク皇席陛下親シク停車場ニ御送迎遊バ
サレタリシハ絶無ニ非ズトスルモ(マンチエスター、ガード
ディアン)紙ハ空前ノ事例ナリト特記セリ)極メテ稀有ノ
特例ナルノミナラス殿下「バッキンガム」宮殿ニ御駐泊中
ハ勿論御微行ニ入ラレタル後ト雖当國皇室ノ御接待振ハ実
ニ懸懃ラ極メタルハ別紙詳報ノ通ニ有之候

一方殿下此度ノ御渡英ハ時恰モ中欧帝國ノ崩壊及我聯合諸
國ノ勝利ヲ以テ四閱年余ノ大戰爭モ將ニ終局ヲ告ケントス
ルノ際當國ノ朝野一般ハ之ニ對シ最大ノ注意ヲ払ヒツツア
ル折柄當國ノ重ナル新聞紙ハ殿下ノ歎迎ヲ機トシテ或ハ戰
争中聯合國ニ寄与セル帝國ノ貢獻ヲ称揚シ或ハ日英同盟ノ
效績ニ論及シテ其永続ノ必要ヲ主張スル所アリタル結果日
英両皇室ノ御親交ト日英両國ノ密接ナル關係ニ向ヒ輿論ヲ
喚起セシメ今次聯合側ノ大捷ニ對スル帝國ノ偉大ナル貢獻
ヲ想起セシムル事渺カラサリシハ本使ノ欣幸トスル所ニ有
之候殿下御滞京ノ御狀況具報ニ方リ茲ニ本使ノ感想申添候

六 東伏見宮依仁親王殿下英國及他連合國往訪一件 一〇八

(別紙)

東伏見宮依仁親王殿下ノ御一行ハ十月二十八日「デヴォンポート」ニ御入港ノ御予定ナルヲ以テ一十七日本使ハ當館附、飯田、田中両武官及吉田一等書記官ヲ帶同「アーチャー・オガ、ロバート」親王殿ト (Major H. R. H. the Prince Arthur of Connaught) 回御附武官陸軍大尉「トーマス・ペルス、チャーチル、マーティン・シンクレー」 (Captain the Honourable Archibald James Murray St. Clair) 及接伴員タル陸軍中佐「チャーチル、ウェーラー、ペルス」 (Lieutenant General Sir William Pulteney) 侍従武官海軍中佐「チャーチル、カスル」 (Commander Sir Charles Cust, Bart.) 陸軍中佐伯爵「ロバート・チャーチル、マーティン・ガムリー」 (Lieutenant Colonel the Earl of Pembroke & Montgomery) 陸軍少佐「レスリー・ロウリー・ヒル」 (Major Leslie Rowley Hill) 等ヘ一行ト共ニ特別列車ニテ御出迎ノ為同港ニ出張致候猶当地新聞記者並ニ我大阪毎日、朝日、国民、時事等ノ通信員モ海軍当局ヨリ特別案内ヲ受ケ同列車ニテ随行致候

十月二十八日（月曜日）午前四時御乗艦タル服装巡洋艦「オルヴィエト」 (Orvieto) 号入港潮期ヲ俟チテ桟橋ニ繫泊セルヲ以テ本使ハ前記御出迎ノ當館員ヲ伴ヒテ午前十時登艦伺候申上ケ間セナク「アーサー」親王殿下ハ前記英國側接伴員、同地方皇帝御名代「オルテスキュー」伯 (Lord Lieutenant of the District of Devon, Earl Fortescue) 「オバーンポート」鎮守府司令長官海軍中佐「チャーチル、チャーベル」 (Vice-Admiral Sir Cecil Fiennes Thurlby) 南部地方司令長官「チャーチル、スカラーナター」 (Lieutenant-General Sir Henry Crichton Scaler) 及「チャーブ」軍管区司令官陸軍少將「チャーチル、ヴィクター・クーパー」 (Major General Sir Victor Couper) 等ヲ隨行登艦御出迎相成候特使宮殿下ハ長途ノ御旅行ニモ拘ラス至極御健勝ニ渡ラセラレ御機嫌麗シク「アーサー」親王殿下ヲ始メ奉迎諸氏ノ歓迎ヲ受ケ同殿下ト久潤御懇話ノ後「アーサー」親王殿下ノ先導ヲ以テ君ヶ代奏樂ノ裡ニ棧橋ニ整列セル儀仗兵ヲ御檢閱アラセラレ午前十一時ヲ以テ「キーフィー、ドックズ」停車場 (Keyham Docks Station) ワリ特別列車ニテ倫敦へ御登艦御出迎相成候

ニ向ケ御発車午後二時四十五分同府「ベティンヘン」停車場ニ御到着遊バサレ候処（附屬第1号参照）当日同停車場ニ於テハ「プラットフォーム」ニ紅氈ヲ敷キ詰メ場内各所ニ日英ノ国旗ヲ交叉スル等裝飾ニ周到ノ用意ヲ尽シ且構外ニベ界柵ヲ設ケテ警備ヲ嚴ニシ御歓迎万般ノ準備何等遺漏無キ様相認メ申候

英國皇帝陛下ニハ海軍ノ御制服ニテ親シク停車場ニ御臨幸相成リ「ロバート」公殿ト (H. R. H. Field Marshal the Duke of Connaught) 「チャーチル、マーティン」伯 (Earl of Chesterfield, Master of the Horse) 「チャーチル、マーティン」ヘザン・チャーチル Captain the Honourable Sir Charles Fitzwilliam, Crown Equerry) 国内総司令官陸軍大将「チャーチル、マーティン」 (General Sir William Robertson) 錦勲軍管区司令官陸軍少将「チャーチル、マーティン」 (Major-general Geoffrey Fielding) 及首相及外相「チャーチル」聯合国會議參列不在ノ為英國政府ヲ代表セル外務副大臣「ロバート、ロバート・チャーチル」 (The Right Honourable Lord Robert Cecil, Assistant Secretary of State for Foreign Affairs)

六 東伏見宮依仁親王殿下英國及他連合國往訪一件 一〇八

一六一

其他文武ノ高官ハ陸トヲ團統シテ「プラットフォーム」ニ侍立ン当館員一同在倫敦我總領事及館員本邦陸海軍武官及日本商店代表者等日本人ノ一団モ亦場内ニ控ヘ後方ニハ「スコット、ガーデ」 (Scots Guards) 整列シテ当日儀仗ノ任ニ当リ又場外ニハ此盛儀ヲ拝ムガタメ群集堵列シ内外ノ光景開戦以来ノ盛観ナリト称セラレ候

定刻特別列車ノ着場スルヤ皇帝陛下ハ列車ノ戸口ニ進ミテ親シク殿下ヲ迎ヘラレ極メテ御懇篤ナル御握手御對話アリテ先ツ「ロバート」公殿トニ御引合ノ後本使及殿下御隨員其他ノモ順次握手ノ礼ヲ賜ハリ駕テ君ヶ代吹奏中儀仗兵ノ敬礼アリテ殿下ハ皇帝陛下ト御同伴之カ檢閱ヲ済マセラレ皇帝ノ御紹介ニ依リ「ロバート」地方御名代「クリュウ」侯 (The Marquis of Crewe, His Majesty's Lieutenant for the County of London) 「ロバート、ロバート・チャーチル」 (The Right Honourable Lord Robert Cecil) 其他御出迎ノ貴顕ト握手御会釈ノ後皇帝「ロバート」公殿下及「アーサー」親王殿下ト共ニ四頭曳儀裝車ニ御同乗相成リタリ此際陛下ニハ殿下再三ノ御辭退ニ拘ラス強テ右席ヲ讓ラセラレ其御態度ニ顯ベタル御懇情ハ殿下ノ御謙

六 東伏見宮依仁親王殿下英國及他連合國往訪一件 一〇八

一六一

讓ト相待ツテ拝観者一同ヲシテ日英両皇室ノ親交ニ関シ深甚ノ印象ヲ感セシメタル様見受ケラレ申候次ニ御隨員、英國側接待員、及本使等ハ四台ノ馬車ニ分乗シテ之ニ扈從シ騎馬儀仗兵ノ先駆ヲ以テ沿道堵列群集歡呼ノ裡ニ「バッキンガム」宮殿(Buckingham Palace)ニ向ヒ午後四時同

宮殿ニ御到着遊バサノ候

同宮ニ於テ皇帝陛下特使宮殿トベ「ヨンノーム」公御父子両殿下ト共ニ儀仗兵檢閱ヲ了セラソタル後大広間ニ於テ皇后陛下及「マーリー」内親王殿下(Her Royal Highness Princess Mary)ト御対面相成リ「トマーカー」子爵(Viscount Farquhar, Lord Steward)「チャーチルバーベル」子爵(Viscount Sandhurst, Lord Chamberlain)「チャーチル・ダグラス、ムーア」大佐(Colonel Sir Douglas Dawson, Comptroller, Master of the Household)「チャーチル・チャーチル・カーラム」(Sir Arthur Walsh, Master of the Ceremonies)其他ノ宮内大官等ニ御謁見遊バサノ候

特使宮殿下及隨員ニ対シ當口左記ノ通叙勲ノ御沙汰有之候

特使宮殿下御使命ノ主昭タル元帥刀捧呈ノ盛典ハ本日ヲトシ之ヲ挙行スル事ニ御治定相成リタルヲ以テ当日午前九時半本使ハ飯田及田中両武官、吉田一等書記官、林及矢田二等書記官ヲ帶同シテ「ベッキンガム」宮殿ニ参内英國陸海軍元帥ト共ニ正殿ニ相控ヘ候處皇帝皇后両陛下ニベ「マーリー」内親王殿下、「チャーチル」公殿ト、「トマーサー」親王殿下ノ隨伴「チャーチル」子爵(Viscount Farquhar)

「チャーチル」子爵(Viscount Sandhurst)及其他ノ宮内官ノ扈從ヲ以テ午前九時五十五分正殿ニ出御アリ諸皇族ヲ始メ文武諸官ハ別紙第二号ノ通各所定ノ位置ニ侍立シ

之ト同時ニ次室ニ控ヘ居タル特使宮殿下御一行ハ最下位高橋宮内事務官ヨリ順次參殿其都度本使ヨリ各官氏名ヲ御披露申上ケ宮殿下ニベ最終ニ參殿陛下ニ咫尺シテ御対立附属

第三号ノ通り奉呈ノ式辞御朗誦相成リ之ニ対シ皇帝陛下ベ別紙第四号ノ通り御答辭有之、夫ヨリ殿下ハ第一ニ井上總裁ノ捧持セル御親翰、第二ニ柴中将ノ捧持セル元帥刀、第三ニ小栗中將ノ捧持セル元帥徽章ヲ順次皇帝陛下ニ捧呈被遊候(附屬第五号参照)

捧呈式首尾克ク完了ノ上殿下先御退出、隨員ハ井上侯爵

六 東伏見宮依仁親王殿下英國及他連合國往訪一件 一〇八

東伏見宮殿下 Royal Victoria Chain

井上宗秩寮總裁 G. C. M. G.

柴陸軍中將 G. C. V. O.

小栗海軍中將 G. C. M. G.

前田陸軍歩兵大尉 松平式部官

雨宮軍医大監 各 C. V. O.

山縣海軍少佐 高橋宮内事務官

南郷海軍大佐 } 各 M. V. O. 五等

中根宮内属 足立宮内属

兼テ御報告候通り特使宮殿トベ「ベッキンガム」宮殿内

ニ御駐泊被遊井上總裁及南郷御附武宮ハ陪宿ノ光榮ヲ荷ヒタルモ自余ノ隨員ハ殿内手狭ノ為メ不得止附近ノ「ルーヴンス」旅館ニ宿泊スル事ト相成申候

同夜皇帝及皇后両陛下ハ東伏見宮及「トマーサー」親王両殿下ヲ御招待御内宴ヲ催サレ井上侯爵モ亦御陪宴ヲ被仰付候

一十九日(火曜日)

リ始メ順位ニ退出シ自余ノ侍立者ハ両陛下ノ入御ヲ俟ツテ各自退殿致候

当日陛下ハ特使「クローマー」卿(Lord Cromer)及当館ニ御差遣ノ上本使ニ「ヴィクトリー」一等勲章飯田、田中両武官ニ各々同一等勲章及吉田一等書記官ニ同三等勲章ヲ賜リ候

午前十一時半殿下ベ「ロバートソン」大將ノ先導ニテ「トマーサー」親王殿下ト共ニ「ウーリッヂ」(Woolwich)ニ赴カン砲兵隊ノ閱兵後砲兵学校及砲兵工廠等ニ御視察相成リ御帰京後左ノ諸皇族ヲ御歴訪被遊候

His Royal Highness the Duke of Connaught.

Her Royal Highness Princess Christiana.

Her Royal Highness Princess Louise, Duchess of Argyll.

Her Royal Highness Princess Beatrice.

Her Royal Highness the Duchess of Albany.

Their Royal Highnesses Prince and Princess Arthur of Connaught.

尚其際殿トベ「トマーサー」親王殿下御邸ニ於テ同親王妃殿

「トヨタモル」等章ヲ御伝贈被遊候哉」承リ候

午後六時半殿下ハ當館ニ御台臨勲章授与式ヲ御舉行相成リ
本年九月一十四日付人機送第八号貴信列記ノ英國陸海軍人
中左ノ人々ニ対シ親シク勲章ヲ御授与被遊候

General Sir William Robertson.

General Sir Nevil Macready.

Lieutenant-General Sir John Cowan.

Major-General Sir William Furse.

Major-General Sir Arthur Lynden-Bell.

Major-General Harrington.

Colonel Steel.

Major Paulet.

Vice-Admiral Sir Herbert Heath.

Engineer Vice-Admiral Sir George Goodwin.

Sir Alfred Eyles.

Acting Vice-Admiral Sydney Freemantle.

Rear-Admiral Sir Hugh Tothill.

Major-General Sir Godfrey Paine.

Lieutenant-Colonel Delacombe.

同夜皇帝皇后両陛下、殿下正賓トシテ「ベッキンガム」

宮殿ニ於テ正宴（State dinner）ア張ル「マーラー」内
親王殿下「ミハヘーネ」公殿ニ「ルイーズ」内親王殿下
及海軍大將「マーレン」内親王殿下「トーキー」親王及同妃両殿

「マリーナ」内親王殿下「ルイーズ」内親王及同妃両殿
Marquis of Milford Haven）殿下御隨員、英國御接待伴員

「トヨタモル」男（The Lord Finlay, Lord Chancellor）

「カーベル」伯（The Earl Curzon of Kedleston, Lord

President of the Council）「スコット」枢（The Mar-

quis of Crewe, His Majesty's Lieutenant for the county
of London）「モルト」侯（The Right Honourable

A. Boner Law, M. P. Chancellor the Exchequer）「ス

トーニー」爵（The Lord Weir, Secretary of State for

the Royal Air Force）「モルト」侯（The

Right Hon. Lord Robert Cecil, M. P. Assistant Secre-

tary of State for Foreign Affairs）「トトニー」男（The

Lord Annaly, Permanent Lord-in-waiting to the King）

「スコット」侯（Lord Revelstoke）「モルト」侯

「カーベル」男（The Lord Colebrooke）海軍元帥「モルト」侯

「オーヴィル」等章ヲ御傳（Admiral of the Fleet Honourable Sir Hedworth Mewes）海軍元帥「モルト」侯
「トマス」スコット（Admiral of the Fleet The Right Honourable Sir Edward Seymour）海軍大佐
「トマス」（The Right Honourable H. H. Asquith, M. P.）「モルト」スコット（Admiral the Honourable Sir Stanley Colville）「モルト」スコット
（General Sir William Robertson, A. D. C. General Bunsen）陸軍大佐「モルト」スコット（General Sir William Robertson, A. D. C. General to the King, General Officer Commander in Chief, Great Britain）陸軍大佐「モルト」スコット（Colonel Sir Douglas Dawson）陸軍管区司令官陸軍令第「モルト」スコット（Major-General Geoffrey Fielding, General officer Commanding London District）其他御内官並本使夫妻、飯田及田母國武官、吉田一等書記官等御陪食被仰付候、当夜、英國首相、外相、陸海兩相、軍令部長、參謀總長等く「モルト」スコット（モルト）會議参列ノ為海外出張中ニテ陪席セサリシヤ陪賓ハ朝

野貴賄約六十名ニ達シ開戦以来未曾有ノ盛宴ト及承候、斯夜皇帝陛下ハ戰爭中正裝停止ノ御治定ニ依リ通常制服若クハ燕尾服ヲ御着用ノ外無之處陛下ハ特ニ日本勳章御佩用ノ職召ノ為ニ「モルト」公殿ニ「モルト」親王殿下御同様ニ燕尾服御着用ノ上菊花大綬章御佩用、皇后陛下「モルト」親王妃殿下ハ勲1等宝冠章ヲ御佩用被遊又当夜ハ開戦以来閉鎖中ノ大食堂（State Dining Room）ア開キ遠ク「モロノバル」宮城ヨリ御秘藏ノ金製什器ヲ御取寄ノ上盛膳ニ備ケタル趣ニ承及候

両陛下ハ御機嫌殊ニ麗敷ク御歎待堅敷ヲ極メ食後御歎談ニ時ヲ移ハ十一時過ニ及候右ハ宮中稀有ノ御事例ナルヤニ拝承致候又当夜ノ正宴ニ一切ノ酒類食卓ニ上ラザリシガ右ハ開戦以来一般国民ニ軍國ノ亀鑑ヲ垂ルルノ御趣意ニ出テタル宫廷恒例ニ遵ヒタル次第ニ有之隨而宴中乾杯ノ礼式モ右恒例ニ顧ミ全ク之ヲ御省略相成候

三十日（水曜日）

朝殿下ハ自動車ニテ「オールダーン」（Aldershot）

ニ赴カレ御觀兵後軍管区司令官陸軍中将「モルト」スコット（モルト）ヤームズ・マーリー（Lieutenant-General Sir

Archibald James Murray) の午餐ニ列セラル其節貴信人送機第八号ニ從ヒ同將軍ニ勲一等瑞呈章ヲ御贈与被遊候、夜外相「バルフォア」氏「ガヨルサイヨ」會議參列不在ノ為外務副大臣「ロバート・セシル」卿之ニ代リテ外相私邸ニ於テ殿下ノ為ニ晚餐ヲ催サレ本邦人側ヨリハ井上總裁、柴中將、小栗中將、前田侯爵大尉、南郷大佐并ニ本使及田中貳官、英國人側ヨリハ「カノタツ」ニ大僧正(The Archbishop of Canterbury)「ハーヴィー」男 (Lord Finlay) 「ハーベック」侯 (The Marquis of Salisbury) 「スコット・ハルベース」男 (Lord Revelstoke) 「ヘンリエット」爵 (Lord Inchcape) 軍事内諭大臣「スコット・ハルベース」(The Right Honourable George Barnes, M. P.) 及「スマトス」將軍 (General The Right Honourable Jan Christiaan Smuts) 「チャーチル」男 (Lord Churchill) (The Honourable Sir Arthur Walsh) 「チャーチル」(The Honourable Sir Charles Cust) 陸軍中將「チャーチル」ウリヤーノフ、エマヌエル (Lieutenant-General Sir William Pulteney) 艦軍中將「チャーチル」ウリヤーノフ、マクダーモード (Lieutenant-General Sir George

Mark Watson Macdonough) 海軍中將「チャーチル」ルード (Vice-Admiral Sir Herbert Heath) 「チャーチル」(Sir George Buchanan) 倫敦市長「チャーチル」(Sir George Clerk) 等臨宣、英國人側ヨリハ「カノタツ」(The Rt. Hon. Sir Frederick Edwin Smith, Bart.) 〔東伏見宮依〔親王殿下英國及他連合國往訪〕一件 105

Mark Watson Macdonough) 海軍中將「チャーチル」ルード (Vice-Admiral Sir Herbert Heath) 「チャーチル」(Sir George Buchanan) 倫敦市長「チャーチル」(Sir George Clerk) (The Right Honourable Sir Charles Hanson M. P. Lord Mayor of London) 及「チャーチル」(Sir George Clerk) 等食ノ榮ヲ得申候

三十一日 (天長節、木曜日)

午前十時「ベッキンガム」宮殿ニ於テ皇帝陛下ハ殿下ニ御對面親シク天長節ノ祝辞ヲ陳べラタル後皇太子殿下ニ代テ菊花大綬章ヲ御受納被遊候趣承及ビ候
本使ハ恒例ニ從ヒ朝十時半當館ニ於テ館員、總領事及總領事館員在京陸海軍武官及居留民等ト共ニ西殿下御真影ヲ奉掲遙拝式ヲ挙行致候處殿下ハ午前十一時当館ニ御台臨一同ニ當日ノ祝辞ヲ受ケセラル候夫ニ「ローハー」公殿下ハ語「タリーンズ、ハウス」(Clarence House) ニ於テ同公殿下御招待ノ午餐ニ御出席午後ハ「ビギン、ヒル」(Biggin Hill) 航空機場ヲ御観覽被遊候夜本使ハ天長ノ佳節祝賀ト殿下奉迎ノ趣旨ヲ以テ殿下ノ台臨ヲ仰ギ「ハラ

リッヂ」旅館ニ於テ祝宴ヲ相催候處折悪ク首相、外相、陸海両相、軍令部長、參謀總長等ハ海外出張中又惡性寒冒流行ノ為ニ欠席者意外ニ多カリシヤ「チャーチル」親王殿下ニ初メトシ同盟列國へ使臣

「チャーチル」男爵 (Lord Finlay) (Earl of Crawford & Balcarres) (Viscount Farquhar) (Viscount Sandhurst) (The Earl of Chesterfield)

「チャーチル」子爵 (Viscount Farquhar) (Viscount Sandhurst) (The Earl of Chesterfield)

「チャーチル」子爵 (Viscount Sandhurst) (The Earl of Chesterfield)

〔東伏見宮依〔親王殿下英國及他連合國往訪〕一件 105

「チャーチル」(The Rt. Hon. Sir Gordon Hewart) (The Right Hon. Sir Laming Worthington-Evans) (The Rt. Hon. Sir Albert H. Stanley) (The Rt. Hon. Sir Alfred M. Mond) (The Rt. Hon. Sir Joseph Maclay) (The Rt. Hon. W. L. S. Churchill) (The Rt. Hon. A. H. Illingworth)

〔東伏見宮依〔親王殿下英國及他連合國往訪〕一件 105

大 東伏見宮依仁親王殿下英國及他連合國往訪一件 一〇八

「サー、シムヤハ、ロバートン、ラムケン」

(The Rt. Hon. Sir Joseph Compton Rickett)

「サー、チャーチルベ、ハハハハ」

(The Rt. Hon. Sir Charles Hanson)

元帥「サー、トーキー、トトナム」

(Admiral of the Fleet Sir Arthur Fanshawe)

「バーンヒル」男爵

(Lord Herschell)

「コールブルーク」男爵

(Lord Colebrooke)

「チャーチルドリック、エッハハハ」

(The Rt. Hon. Sir Frederick Ponsonby)

「カーナード」男爵

(Lord Cunliffe)

陸軍大將「サー、ウヰットン、ロバーツ」

(General Sir W. R. Robertson)

海軍中將「サー、クーリー、スミス」

(Vice-Admiral Sir Herbert L. Heath)

「スマーヴィーナム」男爵

(Lord Stamfordham)

陸軍中將「サー、シムラム、マクニヒ」

(Lt. General Sir G. M. N. Macdonough)

「六八
陸軍中將「サー、ウィリアム、ペルリー」」

(Lt. General Sir William P. Pulteney)

「サー、トーキー、ベタム」

(Sir Arthur Stanley)

「サー、ハムラク、ケラズ」

(The Honourable Sir Derek Keppel)

「サー、ダグラス、ムーハ」

(Colonel Sir Douglas Dawson)

「サー、チャーチルベ、ヌベル」

(Commander Sir Charles L. Cust)

「サー、ルイス、ラムゼイ」

(Rt. Hon. Sir Louis Du Pan Mallet)

「スウェストリッジ」男爵

(Lord Swathling)

「スミス、オウ、ダンフュルマリ」男爵

(Lord Shaw of Dunfermline)

「バーナード」男爵

(Lord Burnham)

「サー、モーリス、ホーリー」

(Rt. Hon. Sir Maurice de Bunsen)

「インチケーパ」男爵

(Lord Inchcape of Strathnaver) 其他又本邦人側ヨリ目下在京中ノ徳川慶久公、日置特命全

権公使、桜井及田中館両博士初メ總領事、在京重ナル陸海軍武官、本邦重ナル銀行及商店ノ代表者等内外朝野ノ紳士約百七拾名ノ參会ヲ見タルハ時節柄本使並ニ館員ノ欣幸トスル所ニ有之候

宴半ニシテ「ローレン、ロバート、ヤンセン」(The Rt. Hon-

ourable Lord Robert Cecil.) く起立先ソ殿下ノ御来英

ヲ歓迎シ今次ノ戦争ニ於ケル日本ノ貢獻ヲ賞讃シ日英同盟ノ效績ニ言及シテ其永続ヲ冀望スル旨ヲ述べテ天皇陛下ノ為メニ寿觴ヲ挙ケ一同熱心ヲ以テ之ニ応和シ又本使ハ別紙第六号ノ通り祝辞ヲ述べ來賓一同ト共ニ英國皇帝陛下ノ御健康ヲ奉祝致候

十一月一日(金曜日)

此日倫敦市長ハ市ヲ代表シテ殿下ノ為メ歓迎会ヲ開催致候

処朝來市内到ル所ニ日英ノ国旗ヲ掲揚シ沿道民衆堵ヲ成シテ歓迎ノ誠意ヲ表スル等稀有ノ盛典ニ有之候此日早朝殿下ハ御隨員ト共ニ「シムペード、ブッシ」特別衛戌外科病院(Shepherd's Bush Special Military Surgical Hospital)

大 東伏見宮依仁親王殿下英國及他連合國往訪一件 一〇八

一六九

陛下ヲ代表シ英國皇帝陛下元帥刀持呈ノ大命ヲ奉シテ遠ク御渡英相成リタル特使宮殿下ヲ御歓迎申上クルノ機会ヲ得タルハ倫敦市ノ最光榮トスル所也ト述べ進ンデ戰爭ニ対スル日本ノ努力貢献ヲ賞揚シ誠意、名誉及自由ヲ重ンズル点ニ於テハ何国モ日本ニ如クモノ無シ日本ハ今次ノ戰争ニ際シ同盟ノ情誼ヲ重ジテ聯合與國ト協力シ終始一貫聯合國ノ偉大ナル成效ニ寄与スル所摺カラズト結ビテ殿下ノ為ニ杯ヲ挙ゲ來客ト共ニ乾杯ノ礼ヲ行ヒ殿下ハ満場拍手ノ裡ニ御起立別紙第八号ノ通ニ御答辞ヲ述べラレ候

此夜總理大臣「ロイド・ジョージ」氏ハ殿下ヲ晩餐ニ御招待申上ゲシガ「ヴェルサイユ」會議參列ノ為ニ軍事内閣大臣「カーボン」卿之ニ代リテ御歓待ノ任ニ當リ「アーチャー」親王殿下、井上總裁、柴中將、小栗中將、「サー・ウヰリアム・ペルニー」中將（Lieutenant-General Sir William Pulteney）「フキンハマー」卿（Lord Finlay）「サー・ヘンリック・ベヌス」（The Right Honourable Sir Frederick Smith）「ウェーベン、チャーチル」侯（The Right Honourable Winston Churchill）「クロード・ハム、ベルカント」伯爵（Lord Crawford and Balcar-

res）海軍大將「チャールス・ベンスフォード」卿（Admiral Charles Willam de la Poer Beresford）「カーベン」卿秘書「ジラウジ、カンニンガム」氏（Mr. George Cunningham）其他參照、本使、飯田、田中兩武官、吉田1等書記官等亦陪席ノ榮ヲ得候

十一月一日（土曜日）

朝殿下ハ接伴官「サー・チャールス・カスト」（Sir Charles Cust）ノ先達ニ依リテ井上總裁、柴中將、小栗中將、及南鄉大佐等ヲ御帶同「ウインゾル」宮城ニ赴カセラレ先帝ノ御墳塋ニ花環ヲ捧呈シ城内諸御陵及「ゼント・ジニア」寺院ヲ御巡拝ノ後御帰京被遊候御帰京後「アーサー」親王殿下ハ御私邸ニ殿下、井上侯爵、前田侯爵、松平子爵及本使夫妻ヲ晩餐ニ御招待被遊井上總裁、本使、田中陸軍武官、吉田書記官、浜野海軍輔佐官等陪席致候

当夜殿下ハ當館ニ於テ接伴員一同ヲ晩餐ニ御招待被遊井上總裁、本使、田中陸軍武官、吉田書記官、浜野海軍輔佐官等陪席致候
宴会後殿下ハ小栗中將、南鄉大佐、山縣少佐及浜野海軍輔佐官等御帶同午後十時五十五分「ハーストン」停車場ヲ御発車蘇格蘭ニ被為回、「トーサー」親王殿下、同御附武官

午前十時御乗車ハ蘇格蘭首府「ハーバンバッハ」ヘ附近ナル「ダルメリー」（Dalmeny）停車場ニ御着、殿下御一行ハ同停車場ニ於テ蘇格蘭沿岸司令長官、海軍大將「サー・セシル・バーネー」（Admiral Sir Cecil Burney）以下ノ出迎ヲ受ケサセランタル後自動車ニテ「ハーベー、ポンツウーン」（Edgar Pontoon）港に向ケヤハル夫ヨリ午前十時二十分大艦隊旗艦「クヰーン・エリザベス」ヲ御訪問被遊候處同艦上ニハ總衛兵及樂隊立付、司令長官、司令官及大艦隊乗組日本將校等迎接申上候

殿下御一行ハ約二十分間御在艦ノ後「ドックヤード」潜航艇等御參觀相成リ夫ヨリ御一行ハ二隊ニ分レ宮殿下、「サー」親王殿下、小栗中將、南鄉大佐、「サー・チャーチャルス・カスト」（Sir Charles Cust）ヨリ成ル第一隊ハ第一戦隊旗艦上ニ於テ司令官海軍中將「サー・セシル・バーネー」（Vice-Admiral Sir John De Robeck）ノ御訪問被遊候處同艦上ニハ總衛兵及樂隊立付、司令長官、司令官及大艦隊乘組日本將校等迎接申上候

殿下御一行ハ約二十分間御在艦ノ後「ドックヤード」潜航艇等御參觀相成リ夫ヨリ御一行ハ二隊ニ分レ宮殿下、「サー」親王殿下、小栗中將、南鄉大佐、「サー・チャーチャルス・カスト」（Sir Charles Cust）ヨリ成ル第一隊ハ第一戦隊旗艦上ニ於テ司令官海軍中將「サー・セシル・バーネー」（Vice-Admiral Sir John De Robeck）ノ御訪問被遊候處同艦上ニハ總衛兵及樂隊立付、司令長官、司令官及大艦隊乘組日本將校等迎接申上候

夫ヨリ御一行ハ米國艦隊旗艦「ニコウヨウク」及第六戦隊ヲ御訪問相成候處第六戦隊旗艦上ニ於テハ同隊司令官ヨリ茶菓ノ餐應有之候午後八時大艦隊司令長官海軍大將「サー・デヴィッド・ビーチ」（Admiral Sir David Beatty）ノ殿下ヲ正賓トシ前記第一隊ノ人々又巡洋艦艦司令長官中將「サー・ウヰリアム・ペケナム」（Vice-Admiral William Pakenham）ノ御歓待ノ後午後四時二十分同

ミラル Sir William Pakenham)、前記第一隊ノ人々ヲ夫々旗艦ニ於テ晚餐ニ御招待申上候第一隊ノ晚餐會上「ルーティー」大將ハ起チテ先づ同盟國ノ海軍大將タル宮殿下ヲ歓迎シ奉ルノ光榮ヲ喜ビ英國艦隊勤務ノ日本將校ノ勤務振ヲ極力賞讃シ此機会ニ於テ或英國軍艦ト運命ヲ共ニシテ職務ニ殉ジタル下村、江藤、武官ノ為ニ深厚ナル追悼ノ意ヲ表シ最後ニ此大戰中英國海軍ガ日本海軍ヨリ学ビシ所尠カラザリソラ茲ニ明言シテ特ニ感謝スト述べテ殿下ノ為ニ一杯ヲ挙ゲ殿下ハ之ニ對シ先ソ此度ノ歓迎振ニ謝意ヲ表セラレ特ニ勇敢ナル英國艦隊ノ將卒ト相会スルノ機會ヲ得タルヲ喜ブ旨御挨拶有之候

当夜殿下ハ御一行ト共ニ特ニ設備セル汽車中ニ御座泊被遊

候

十一月四日（月曜日）

午前十時二十分御一行ハ「タキーン、ヒリザグス」艦ヲ御訪問被遊艦上總衛兵及樂隊立奉殿下、甲板上ニ於テ司令長官、司令官、日本將校及日本勳章佩用將校ノ歓迎ヲ受ケサセラレ十一時三十分艦内ニ於テ勳章授与式御挙行相成前顕人機送第八号貴信所載海軍將校中左記ノ人々ニ所定ノ勳章

又「ホーラ」艦長「トトガベヌ」士佐（Commander Douglas Faviell）、張拂川等ヲ泊リ「キハク」大副（Lieu-tenant Lancelot King）旭口五等ヲ御授与相成候

歓迎シ奉ルノ光榮ヲ喜ビ英國艦隊勤務ノ日本將校ノ勤務振

ヲ極力賞讃シ此機会ニ於テ或英國軍艦ト運命ヲ共ニシテ職務ニ殉ジタル下村、江藤、武官ノ為ニ深厚ナル追悼ノ意ヲ表シ最後ニ此大戰中英國海軍ガ日本海軍ヨリ学ビシ所専カラザリソラ茲ニ明言シテ特ニ感謝スト述べテ殿下ノ為ニ一杯ヲ挙ゲ殿下ハ之ニ對シ先ソ此度ノ歓迎振ニ謝意ヲ表セラレ特ニ勇敢ナル英國艦隊ノ將卒ト相会スルノ機會ヲ得タルヲ喜ブ旨御挨拶有之候

当夜殿下ハ御一行ト共ニ特ニ設備セル汽車中ニ御座泊被遊

候

K.C.B.

Vice-Admiral Trevylyan D. W. Napier, C.B.

Rear-Admiral Sir Richard F. Phillimore, K.C.M.G.

Rear-Admiral Douglas R. L. Nicholson

Rear-Admiral William E. Nicholson, C.B.

Commodore (2nd class) Hugh F. P. Sinclair, C.B.

Commodore (2nd class) Hugh Justin Tweedie.

Captain Charles B. Miller, C.B.

Captain Crawford MacLachlan.

Captain Arthur A. M. Duff.

Captain Charles W. R. Royds.

記ノ通リ勳章ヲ伝達致候

旭田川等 The Rt. Hon. Sir Charles Augustin Hanson, Bart. M. P. Lord Mayor.

旭田川等 Banister Flight Fletcher, Esq., F. R. I. B. A. Sheriff.

旭田川等 Colonel William Robert Smith, M. D. D. L. J. P. Sheriff.

瑞宝四等 Thomas Francis Rider, Esq., M. V. O. Chairman of the City Lands Committee.

旭田川等 Sir James Bell, Town Clerk.

十一月五日（火曜日）

朝八時殿下ハ蘇格蘭御視察ヲ終く「ヨーベル」停車場ニ御帰着被遊候

皇帝及皇后両陛下ハ特ニ殿内ヲ昼餐ニ御招待被遊「マーラー」内親王御列席ノ外井上總裁陪食被仰付候

午後一時五十五分殿下及御一行ハ「ヨウターリア」停車場ヨリ仏國ニ向ケ御発車被遊候處皇帝陛下ハ殿下ヨリ特ニ御辭退申上ゲシ拘ラズ御同車（前回同様右席ヲ殿下ニ譲ラセラル）相成リ停車場ニ御見送被遊候

當日倫敦ニ於テ本使ハ殿下ノ旨ヲ承ケ倫敦市長其他ニ左敷ク停車場迄御見送申上候

六 東伏見宮依仁親王殿ト英國及他連合國往訪1件 一〇八

当日同停車場内御発車ノ「プラットフォーム」ニハ特ニ紅氈ヲ敷詰メ日英ノ国旗ヲ掲揚スル等「バディントン」御着ノ際ト同様ニ有之候

殿下ハ皇帝陛下及「コソノート」公殿ト御挨拶相成リ、先着ノ倫敦軍管区司令官陸軍少将「フキールディング」(Major-General G. Fielding) 英国側接伴員、当館員、在京陸海軍將校及重ナル居留民等御見送ノ人々ニ対シ夫々御会釈ノ上「アーサー」親王殿下及御隨員ト共ニ定刻ニ御発車、午後三時四十五分「フォーカストン」御着、午後四時軍隊輸送船ニテ同港御発、午後六時十五分「ブーロニー」ニ御着港被遊候

本使ハ飯田、田中両武官及吉田一等書記官ヲ帶同シテ「フォーカストン」迄御見送申上ゲ接伴員「サー、チャールス、カースト」(Sir Charles Cust) ハ特ニ仏國「ブーロニー」迄隨行致候本使「フォーカストン」ニ於テ殿下ト御分レノ際殿下ハ皇帝皇后両陛下へ御礼言上方本使ニ御下命相成候ニ付本使ハ十一月七日「バッキンガム」宮殿ニ伺候ノ上「サー、デレック、ケップル」(Honourable Sir Dereck Keppel) ハ訪問右伝奏方親敷及依頼置候處翌八日同

氏ヨリ本使ニ宛テ別紙第九号写ノ通り來状ニ接シ候

自十一月十九日至十一月二十七日(御微行)早朝本使ハ飯田、田中両武官、吉田一等書記官ヲ加ヘテ此度ハ殿下御微行ノ御事ナレバ特ニ市中居留民ヲ代表スル意味ニテ森財務官ヲ帶同シ「フォーカストン」ニ出張殿下御一行ヲ迎接申上候處殿下御一行ハ午前九時半「ブーロニー」出發船、軍隊輸送船ニテ午前十一時三十分「フォーカストン」御着同十一時四十五分同地発、特別列車ニテ午後一時三十五分「ヴヰクトーリア」停車場ニ御着、當館員、在京陸海軍將校、重ナル居留民ノ御出迎ヲ受ケサセラレ候又「アーサー」親王殿下ハ皇帝陛下ノ特旨ヲ奉ジ殿下ヲ仏國ニ御同伴相成候處引続キ「ヴヰクトーリア」停車場迄殿下ト御同車相成同停車場ニ於テ御揖別ノ上翌日直ニ仏國ニ御引返相成候

十一月二十一日(金曜日)

午後三時四十五分殿下ハ當館ニ於テ日本協会(Japanese Society)長「サー、ウキンダム、マレー」大佐(Colonel Sir C. Wyndham Murry)及幹部ヲ御引見相成リ同會長ヨリ殿トヲ同會ノ名譽總裁ニ奉戴致度旨ノ式詞ヲ御受諾相

成リタル後(附屬第十号及第十一号參看)本使ノ開催ニ係ル「レセプション」ニ御台臨被遊候此日本使ハ主トシテ同協会會員ヲ殿下ニ御紹介申上グルノ趣旨ヲ以テ「レセプショソ」ヲ相催候処日英ノ紳士淑女約二百五十名參会致候英國宮廷及政府ハ殿下公式御訪問中ハ勿論御微行ニ入りタル後ニ於テモ接待振依然極メテ懇篤ナル耳ナラス折悪シク

流行性感冒ニ罹リ不得止當國ニ居残リタル松平子爵及高橋事務官ノ病氣ニ對シテモ最モ周到ナル斡旋ニ力メラレタルヲ以テ十一月二十三日本使ハ殿下ノ御内意ヲ奉ジテ「サー、デレック、ケップル」(Honourable Sir Dereck Keppel) ハ宮中ニ訪問ノ上殿下ニ於テハ皇帝皇后両陛下ニ対シ已ニ御告別申上ゲタル次第ニ有之候ヘ共爾來宮廷ヨリ引続キ特別ノ御待遇ヲ蒙リタル事実ニ顧ミ去國前今一度非公式ニ両陛下ニ御礼申上度思召有之候處右ハ稍異例ニ亘ル様被存候ニ付之ニ閑スル貴官ノ腹蔵無キ御意見ヲ承ルヲ得ハ幸甚ナル旨述ベタルニ同官ハ之ニ対シ若シ殿下ニ於テ右様ノ御内意有之ハ両陛下ニ於テハ喜ンデ御引見可相成ハ勿論ノ儀ト存ズルモ鬼ニ角奏上ノ上確答可致旨答ヘタル處翌一十四日同氏ヨリ右ノ次第篤ト皇帝陛下ニ執奏致セシニ陛下

氈ヲ敷詰メ日英ノ国旗ヲ掲揚スル等「バディントン」御着ノ際ト同様ニ有之候

殿下ハ皇帝陛下及「コソノート」公殿ト御挨拶相成リ、先着ノ倫敦軍管区司令官陸軍少将「フキールディング」(Major-General G. Fielding) 英国側接伴員、当館員、在京陸海軍將校及重ナル居留民等御見送ノ人々ニ対シ夫々御会釈ノ上「アーサー」親王殿下及御隨員ト共ニ定刻ニ御発車、午後三時四十五分「バディントン」停車場ニ御着、當館員、在京陸海軍武官、重ナル居留民等出場致候殿下ハ午前十時御隨員ト共ニ「デヴォンポート」ニ向ケ御発車、午後二時五十五分「ミルベイ、ドックス」(Milbay Docks) 停車場御着、「アリヤス」鎮守府長官海軍中將「サー、ヴィクター、クーパー」(Vice-Admiral Sir Cecil F. Thurstby) 及「デヴォンポート」軍管区司令官陸軍少将「サー、ヴィクター、クーパー」(Major-general Sir Victor Arthur Couper) 等ノ御迎接ヲ受ケサセラレ直ニ小蒸氣船ニテ仮裝巡洋艦「オルヴィエット」号ニ御移乗被遊候

英國御出発ニ際シ皇帝陛下ニ對シテ別紙第十一号ノ通ニ續
發電相成リシ處ニ付シテ別紙第十二号ノ通ニ續由
御返電有之候ニ付当館ヨリナラ在華府大使ヲ經由転電方取
計置候將又本使ヘ森財務官、飯田、田中商武官、吉田一等
書記官等ヲ帶同シ特別列車ニ陪乗シテ御見送申上御乗轍ニ
於テ拝別致候

拙 別紙第一号乃至同第十二号ノ中第十三号及第四号ヲ夫々附屬
書一及附屬書二ノ内左ニ掲載シタル以外ノ縦テ省略セリ

(詔勅勅 1)

別紙第十二号依仁親王殿ナニイテ英國皇帝陛下ニ元帥徽章奉呈

ヘ武銜

Sire,—I am commanded by His Majesty the Emperor, to convey to Your Majesty the expression of his sincere appreciation and profound gratitude for the signal honour lately conferred upon him by according him the highest military rank in Your Majesty's army and also for the most exalted manner in which the Field-Marshal's baton was transmitted, and to ask Your Majesty graciously to accept this sword and badge, the insignia of a Field-Marshal in the Imperial Japanese Army, which I am charged

taken of his unchangeable friendship and high esteem.

(詔勅勅 1)

別紙第十四号英皇御詔勅ナニ依仁親王殿ナニイテ御乗轍

It was with sincere pleasure that I learned that the Emperor of Japan had entrusted this Special Mission to Your Imperial Highness, for I have preserved the happiest recollection of your presence as my guest at the time of my Coronation.

The honour conferred upon me by His Imperial Majesty in appointing me a Field-Marshal in his Army, is enhanced by the reception at your hands of the symbols of that Office.

I shall ever preserve this Sword and Badge not only as the insignia of the highest rank in the Japanese Army, but as tokens of the most valued friendship of His Imperial Majesty, whose gallant

to deliver into your Royal hand together with the accompanying autograph letter of His Majesty the Emperor.

Your Majesty's gracious act in bestowing upon His Majesty the highest dignity in the British Army and in accepting the same high dignity in the Japanese Army has been greatly appreciated by His Majesty the Emperor as well as by the whole Japanese nation as significant not only of unalterable friendship but also of the cementing of the alliance and unity of purpose already existing between our two respective nations.

In accepting the rank of a Field-Marshal Your Majesty has conferred the highest honour on the Japanese Army, which is proud of being associated with the indomitable Army of the British Empire, whose traditional unwavering patriotism and unflinching tenacity have elicited not only His Majesty's admiration but of the whole world.

His Majesty the Emperor trusts, Sire, that in appointing Your Majesty to be a Japanese Field-Marshal his act will be regarded by you as a signal

Forces by sea and land are our faithful comrades in arms in the cause of right and freedom. May their joint efforts further cement the Alliance and friendship between our two Nations.

I am glad of this opportunity to express on my own behalf and in the name of my people our deep appreciation of the gracious and warm-hearted reception accorded to my cousin, Prince Arthur of Connaught by the Emperor and by all classes of the community in Japan during his recent and enjoyable visit to your charming country.

Please assure the Emperor, our August Ally, of my most friendly sentiments, and of my constant wish for the health and prosperity of His Imperial Majesty and the welfare of the Japanese people.

29th October, 1918